

リーダーになる!

実践する上司学。
よきリーダーに、よき上司になるために。



嶋津良智 取締役アカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。94年に共同で情報通信機器販売の新社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第9回 約束

皆さんは「約束」を守ることで得られるものの大きさや、約束を破ることで失うものの大きさについて考えたことはありませんか。

先日ある部下が、自分で指定した期日を守らずに会った当日になって急に約束したことができていないということを報告してきました。

今回のことは正直大したことでなかったのに特に問題はなかったのですが、これが重要な物事だったら非常に困ったことになっていました。もちろん重要なことであれば本人の責任感も変わっていたのかもしれない。しかし、今後の

ことを考えて本人とよく話し合つて次のことを指示しました。

1、できないことはできないとはっきり言う

2、期日は自分のできる範囲の最短で設定をする。その際保険をかけて日程に余裕を持たせない

3、仕事は常に前倒しを心掛け、最悪でも前日に終わるような計画を進める

4、どうしても、約束の当日まで持ち越してしまうものは、当日実際にやつて何が起きるか分からないので絶対に約束の時間に間に合わせる自信のある仕事しか持ち越さない

5、もし、最悪納期に間に合わないことが予測された場合、その時点ですぐに連絡をすること。そして、いつまでだったら間に合うのか、次回納期を報告すること。それにより、「打ち手」が考えられる

以前経営していた会社で、これに似た非常に困った部下がいました。「はい」「分かりました」といった、

返事をしたにもかかわらず、約束の期日に遅れたり、お願いをした仕事をやっていなかったりするのです。

周りの仕事へも大きな影響が出ていたため、その彼には「約束を守ることに對する得るもの大きさ、逆に約束を破ることに由る失うもの大きさについて話しました。

約束を守ると信頼が得られ、信頼が得られると協力者が増え、応援をしてもらえるようになり、仕事を任せたくなくなり、頼みたくなる。そして、仕事が集まり、たくさん仕事をこなすと能力が上がり、自信がわきます。

逆に、約束を破ると「信

頼」を失い、物事によってはそのことがたくさんの人や会社の経営に影響を及ぼし、人や仕事が集まってこなくなり、自信を失うということを伝えました。

わたしは人間の基本的な約束は「時間を守る」ということだと思っています。平気で時間を守らない人もよく見受けられますが、1日24時間という時間は有限なので、時間はもつとも貴重な資産です。

この使い方で人生や仕事・経営の成果が変わってくる大切なものです。人を待たせるということとは、その人の資産を食いつぶしている非常に迷惑なことなのです。

もちろん、生身の人間ですから完ぺきを望むものはありませんが、時間という人の資産を増やすことはしても、減らさないようなお付き合いを心掛けたいものです。